

川上ダム通信 2010 11 月号



独立行政法人水資源機構 川上ダム建設所
〒518-0294 三重県伊賀市阿保 251 番地 TEL: 0595-52-1661 (代)
<http://www.water.go.jp/kansai/kawakami>

ダム検証について

国土交通大臣からダム事業の検証にかかる検討についての指示が出されました

9月28日に国土交通大臣から、独立行政法人水資源機構理事長宛に**ダム事業の検証にかかる検討**について、指示がありました。

全国のダム事業につきましては、「できるだけダムにたよらない治水」へ政策転換するという国土交通省の考えに基づき、事業実施中のダム事業を「検証の対象とするもの」と「事業を継続して進めるもの」とに区分した上で、検証の対象となるダム事業については、平成21年12月3日に国土交通省に設置された「今後の治水対策のあり方に関する有識者会議」で平成22年夏頃を目途に、「中間とりまとめ」として示される予定の新たな基準に沿って、個別ダムの検証を行うこととされてきました。

去る9月27日に開催された「第12回 今後の治水対策のあり方に関する有識者会議」におきまして「中間とりまとめ」が確定し、今回の国土交通大臣からの検討の指示に至ったものです。

「中間とりまとめ」等の詳細につきましては、国土交通省ホームページ

http://www.mlit.go.jp/river/shinngikai_blog/tisuinoarikata/index.html

をご覧ください。

今後は、「中間とりまとめ」の考え方に基づき、具体的な川上ダム事業の検証に係る検討を実施することになります。

川上ダムとしましては、適切かつ速やかに川上ダムの検証に係る検討作業を進めてまいります。

【調査設計課長 岩本浩】



川上ダムサイト予定地

工事の現況

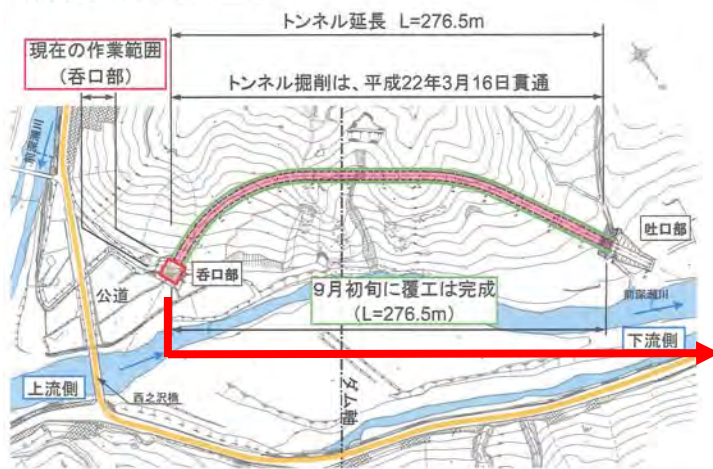
仮排水路トンネル工事等の進捗状況について

平素から川上ダム建設事業へのご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。

仮排水路トンネル工事のトンネル内部をコンクリートで覆う作業は9月初旬で完成しました。現在は、**呑口部（仮排水路トンネルの入口）をコンクリートと鉄筋で作る作業を進めています。**皆様のお手元に、このダム通信が届く頃には完成している予定です。

資材運搬車等が県道松阪青山線を通行しますが、引き続き**一般車両優先で工事を進めてまいります**ので、工事へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

仮排水路トンネル工事



呑口部の作業状況

付替県道青美線トンネル工事の進捗状況について

付替県道青美線トンネル工事については、トンネル上流側の山を削る作業を行っております。

資材運搬車等が県道松阪青山線及び名張青山線を通行しますが、引き続き**一般車両優先で工事を進めてまいります**ので、引き続き工事へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

【工事課 出尾陽一】



トンネル上流側の作業状況

工事跡地に郷土種の苗木を植えました

川上ダム建設所では、建設事業における環境保全対策の一環として、工事等で発生した緩傾斜の裸地については、郷土種による植生回復に努めています。そこで去る9月22日（水）、動植物の生息・生育環境の回復を図るとともに、川上ダム建設所職員及び工事等請負業者への環境保全意識の向上を図るため、**郷土種の苗木（クヌギ、コナラ、シラカシ）**を約100本、工事で造成した跡地（面積約1,400㎡）に**植樹**しました。

参加された方々は、赤ちゃんを触るかのように、優しく苗木をもち、数十年後には大きく成長した姿を見せてほしいという願いを込めて、1本ずつ丁寧に植樹を行いました。参加した方々にとっては、自然を大切にしようという再認識する場となりました。

川上ダム周辺の森林は人との関わりの中で、多様な生物を育んできました。今後も植樹などの活動を通じて、この地域の悠久の時の流れで培われた環境に配慮して事業を進めてまいります。 【第二用地課 松高遵】



植樹の風景



植樹した苗木

ISO14001内部監査員研修

平成22年9月29日（水）に川上ダム建設所のふれあいホールで、**ISO14001内部監査員研修を外部講師を招いて開催**いたしました。

EMS（環境マネジメントシステム）を川上ダムとして運営していく中で、日々の環境に対する活動が適切に実施されているか、また維持されているかなどを毎年内部で監査しております。その監査員になるために、監査の“いろは”を学ぶ場が必要ですので、このような研修を毎年開催し、監査について学んでおります。

研修の内容は、ISO14001の規格が要求する事項や内部監査の目的・定義・実施の手順及び内部監査が円滑に実施出来るような心構えなど広きに渡る講義であり、各々が監査するための力が十分養成されました。

監査は実施することで、より良くさらに有効的なEMSの活動に繋がるものであるため、しっかり勉強したうえで今後とも建設的な監査を受け、EMSの実施・運用を行ってまいりたいと思います。

【総務課 藤好健太郎】



講師の小野寺氏



講習風景

第5回 伊賀市周辺の水辺の土木

阿保発電所

川上ダム建設予定地の直ぐ上流、前深瀬川と川上川の合流地点に趣のある切妻屋根の建物があり、山の頂上からこの建物に向かって大きい鉄の管が繋がっています。この建物、大正時代から今も現役で稼働している**阿保水力発電所**です。種生地区の川上川から導かれた毎秒0.7立方メートルほどの水は、山際の水路によって発電所近くの山頂まで導かれ、そこから落差約78mの鉄管の中を一気に下って発電機を回し、**400kWの電気を生み出します**。

伊賀地方に初めて電気の明かりが灯されたのは明治37年のことで、上野の田中善助という実業家が発電会社をおこし、岩倉発電所を建設して上野市街地に電気を導いたことに遡ります。田中善助は続いて青蓮寺発電所、比奈知発電所を完成させ、名張、青山にも電灯が普及しました。その後、発電所は合併によって津電灯株式会社に発展し、**大正10年には川上地区に阿保水力発電所が完成し青山の農山村部にも電気が導かれました**。また青山の地場産業である製材所も昔ながらの水車からこの電気による動力へ切り替えて発展を遂げ、その後の経済発展の礎となりました。阿保水力発電所で使われた水は木津川を流れ、やがて海へ下り、海の水は太陽エネルギーによって水蒸気となって空中を浮遊し、雨となって再び地上へ降り注ぎます。水力発電は自然の水循環を利用したクリーンなエネルギーで、火力発電はもちろん太陽光発電や風力発電と比べても二酸化炭素の排出量が少ない発電方式です。

【調査設計課 金山明広】



切妻屋根が印象的な阿保水力発電所



発電機へ水を送る鉄の管

EVENT

大村神社例祭

国の重要文化財である大村神社で、今年も秋祭りが開催されます。各地区から奉納される獅子神楽が夜遅くまで舞われ、板店も出て賑わいます。是非、足をお運び下さい。

○日時/11月2日(火)～3日(水・祝)

○場所/大村神社

○問い合わせ/大村神社

Tel: 0595-52-1050

桐ヶ丘まちづくりフェスタ 2010

「地域住民が親睦を深め情報交換し、災害時に地域で助け合い自主防災の意識を高める」をテーマとし、たくさんの出店やアトラクション、AED講習等が開かれます。川上ダム建設所もブースを出展しますので、是非お立ち寄り下さい。

○日時/11月13日(土) 10:00～15:00

○場所/桐ヶ丘3丁目駐車場、アミティ周辺

○問い合わせ/桐ヶ丘フェスタ実行委員会

Tel: 0595-52-3288

編集後記

近頃朝晩はめっきりと肌寒く、水もだいぶ冷たく感じてまいりました。異常気象と騒がれ、猛暑日が続いた夏がようやく終わり、秋の到来を感じております。秋は「食欲の秋」、「読書の秋」といいますが、涼しく、過ごしやすいこの時期こそ「スポーツの秋」にして、運動を楽しみ、爽やかな汗を流してみるのはいかがでしょうか。また、寒くならないうちに大掃除をするのもいいかもしれません。

【広報誌発行事務局】

編集長 及川 拓治 (建設所長)
デスク 吉岡 直也 (総務課長)
// 柳生 光彦 (工務課長)
記者 堀 雅智 (総務課)
加藤 晶久 (第一用地課)
松高 遵 (第二用地課)
森岡 浩然 (調査設計課)



ISO14001: 2004
JQA-EM5769

☆☆☆皆様からのご意見・ご感想をお待ちしています。
ハガキやメール等でどしどしお寄せください。☆☆☆
◇川上ダム建設所はISO14001を取得し、環境保全を推進しています。◇